

# ささえあい活動通信

2020.8.1



八木山地区社会福祉協議会  
ささえあい活動センター長  
伊藤 隆

活動項目 (6・13~6/30)	活動 数 (回)	延活動 者数 (人日)	利用者 数 (人)
障子貼り	4	3	1
カメラ操作	2	2	1
水道水漏れ	2	2	1
安否確認	6	6	3
ゴミ出し	13	13	2
剪定	3	3	2
草刈り	8	17	1
洗面所排水不具合	3	2	1
木伐採	4	6	1
郵便受け修理	5	2	2
リモコン修理	1	1	1
カーテン取り付け	6	2	1
傘修理	2	2	1
業者紹介	2	2	2
家事支援	3	4	1
買い物代行	4	4	1
自転車充電器	1	1	1

## スタッフからの報告

本日 I さん宅の玄関灯、確認に行ってきました。

電子スター（グロー球と違い初めて見る）を交換してみないと解らない旨、連絡。

ネットで検索するもなかなか見つかりません。電気屋で互換品を探してみます。

別件でエアコンが、異音がするし効きが悪いというので点検したところフィルターの埃がすごく、ほぼ目詰まり状態。掃除機でざっと吸い取り、ある程度改善したが、ブラシでしっかりと掃除するか洗浄の必要あり。

その後、玄関灯は仲間と 2 人で知恵を出し合い解決。エアコンは掃除をし、しっかりと動くようになりました。

後日エアコンの掃除をし、効きを良くしました。  
平田



水口さん宅 玄関に一歩入ると棚がありました。災害時の持ち出し用品が、棚に収まっていました。「妻が逃げる時に動きやすいように、長すぎない長靴を用意した。現役時代に使っていたトランクには、備蓄品を納めている」などと話してくださいました。「地形を考えて、道路が川のようになることも想定している」「玄関のガラスには、横木を接着し、補強している」と。世界の荒野を舞台に動いた方だからこそ、災害時にどう生きるかをしっかりと考えておられると思いました。

自分  
と家族  
の命は  
自分で  
守ると。



## 私の困りごと解決物語

トイレのシャワーウォシュレットが故障。平田さんに相談。「機種・メーカー・品番を調べて教えて」と言われ、メーカーはナショナル、品番を知らせる。インターネットで、調べた結果、この製品は製造されてない。それに代わる品で約 6,000 円と教えて頂いた。これを発注しようと思っていた所、一度現物を見てみますと言われ、ささえあいの家にリモコンを持参。

平田さんが点検すると、中で部品が、カチヤカチヤ音がする、「分解してみます」と。

平田さんに預けました。

すると 30 分もしない内に電話がありました。「直りましたよ」喜んで取りに行きました。取り付けると従来通り使用可能。さすがささえあいの困りごと相談解決者。困りごとがこんなにも早く解決するなんて。素晴らしいささえあい活動メンバー。家内も大喜び、感謝・感謝です。



「洗面所の排水がスムーズでない。30 何年も暮らしているから。全く流れなくなっているからでは遅いから、早めにお願いした」と言われます。

スタッフの藤井さんは、いつも車に積んでいる道具を使って、洗面台の下をめくって調べ、「ここで詰まっているに違いない」と言います。U 字になった管を、依頼者に調べてもらいました。中のゴミを出して、問題は解決しました。

早めの依頼で解決も簡単でした。

水口さん宅 玄関に一歩入ると棚がありました。

災害時の持ち出し用品が、棚に収っていました。「妻が逃げる時に動きやすいように、長すぎない長靴を用意した。現役時代に使っていたトランクには、備蓄品を納めている」などと話してくださいました。「地形を考えて、道路が川のようになることも想定している」「玄関のガラスには、横木を接着し、補強している」と。世界の荒野を舞台に動いた方だからこそ、災害時にどう生きるかをしっかりと考えておられると思いました。

★困りごと、連絡ください

★手作り布マスクお分けします。連絡してください。

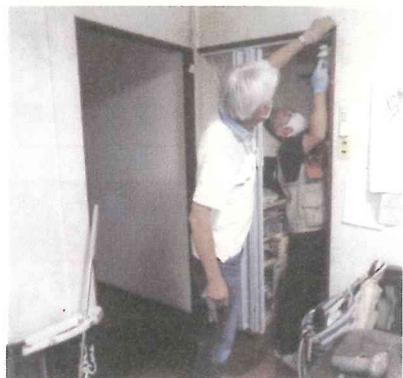
★送迎 買い物代行をします。

電話 058-377-3400

080-5180-7047



「何年も暮らしてきた廊下。台所の床がべこべこする」と言うので、床の補強をしました。



台所の入り口に、「アコーディオンカーテンを取り付けて」という注文です。ホームセンターをいくつも回って、値打で、依頼者の願いに近いものを探し出しました。

「家のことは、灯器交換から何から何までやっていた夫が、病に倒れた。もうここでは暮らしれないという不安の中にいた。しかしこうして、業者に依頼するまでもないことを、気軽に、物入りの今、値打にやっていただけると、ここに住み続けられるかなと思うようになった。」

みんなが「ささえあって、暮らしていくまちづくり」が目標の「ささえあい活動」です。ここで暮らしていくそどういう人が増えることを願っています。

どうぞご利用ください。

2020.8.1  
八木山地区社協

# まちの福祉便りさえあい

会長山田政治  
☎ 377-3400



社協会費が  
使われています

## このまちのエッセンシャルワーカーズ

△さん

籠・レジの台・荷物を積める台等を、消毒、個包装等している。始めたころは、“コロナ”的な思いもあったが、今では、消毒するのが当たり前になっている。いつも見かけない人を見ると、東京からではないだうなんて思いがかすめることもある。今県内は感染者がないからと言う気のゆるみを諒めて、働いている。

## 高齢者施設勤務

伊澤信子さん

施設では、一人でも感染者が出たら、閉鎖になるという危機感の中で、ピリピリした空気になっている。その中でも利用者に柔らかな対応を心がけている。そして、この仕事は、在宅勤務のできない職種だ。最後まで残る仕事だと今回認識した。

## 託児所勤務

堀部喜久枝さん

高齢者施設で働く人の、幼児を預かる仕事をしている。私が、“コロナ”を子どもたちのところに持ち込まないことを最重要視して過ごしている。食料はまとめ買いし店に行く回数を減らす。以前は夫と共に行ったが、一人で行く。友達にも会わない等気を付けて過ごしている。

## ハマヤ店主

「この時節に開店し続ける、客は皆地元の人だから、“コロナ”的な心配はしていない。店は開けていても収入にはならないが」と言

われる。電話で注文が入る。90代の人から。「入院しておられたが、今は在宅。今まで来店されたが来られなくなったので、配達していれる」少量でも配達していただければ、動けなくなつた時の生命線

となる。人々の安否確認にもなっている。まさにエッセンシャルワーカー。

私が持ち込んだ宅急便に依頼する荷物を見て、入れ替えができるならと手作りした箱を出された。入れ替えると200円ほど送料が安くなる。こんな親切なお店、“コロナ”であってもずっとこのまちに住ってほしい。この親切は他の人に回そうと思った。（清水）

## コーフキン 宅配

林さん

いつも、食品という大事なものだから、「確実なお届け」を意識している。“コロナ”で宅配利用が1.5倍と急増し、欠品が出て、迷惑をかける状況にもなっている。仕事量が増えたが、こんな時こそ必要としていただける仕事だと、喜んで働いている。こうして地域を回つて、毎回皆さんのお元気なお顔にお会いできるのはうれしい。

## はがきを送ろうキャンペーン

しばらく会えない人に、この人に送りませんか。ささえあいの家で絵手紙を学んでいる人の作品ではがきを作っています。必要枚数を電話してください。お届けします。0円です。  
散歩がてらに宛先に投函。切手を貼って郵送を。



また今年の夏も、日本は災害列島にどう備えますか。非常持ち出しの用意、備蓄品の準備

家族で避難場所を決めておく

誘って逃げる人を特定しておく

気候危機に対処する一歩を踏み出すことはできないでしょうか。

小さなことでも、多くの人が実行すれば、力になるはず。皆さんのアイデアを教えて下さい。電話、ささえあいの家に投函を。

# ささえあいの家スケジュール

2020年8月

8月も午前中のみの開館です 10時からおいでください。アルミ材収集 11日



月	火	水	木	金
3	4 囲碁・将棋 丁目E班の集い	5 つつじが丘1 相談	6 パソコン 囲碁教室	7 小谷さんの 囲碁教室
10	11	12	13	14
17	18 囲碁・将棋 会	19 認知症茶話 会	20 パソコン相談	21 小谷さんの 囲碁教室
24 包丁 鎌研ぎ	25 囲碁・将棋 会	26	27	28 女性初めて の囲碁教室
31 平和を 語る会	どの催しも	誰でも、参加可	遅刻早退	自由です。

2019.12 ささえあいの家 平和を語る会での語り

広島で被ばく

中学生だった。その日も運動場に整列していた。上空には爆撃機が何機も飛んだ。いつもと違う動きだ。突然の閃光に、地面に伏せた。何が起こったか全くわからない。ひょろひょろと立ち上がった。2,3人の級友が近くにいた。どこへともなく、歩いた。途中畠にカボチャを見つけ、みんなとかじった。放射能を浴びたカボチャと考えるゆとりも知識もなかつた。

収容されたらしく、気が付くと多くの人と同様に床に寝かされていた。「よく生きていたな」と大人から声をかけられた。「食べるか」とおにぎりを差し出された。おなかがすいていると気が付いて、すぐに食べた。腕がやけどで酷いことになっていた。

ここから病院らしい所へ連れて行かれた。どこも満員で、次々と移された。結果、広島から遠く離れた、山陰地方の病院へ入った。病院とは言え、治療薬はない。ただヨードチンキを塗り、包帯を巻くだけだった。後に思った。

爆心地から遠くへ運んでもらったことはよかったです。  
しばらくして叔父が迎えに来た。会ったが、叔父はこんな子は生きていけないと、私を連れずに帰ってしまった。

やがて家族と会えた。幸運にも全員生きていた。弟は、家が倒れ、柱があたって、額から頭頂部に大きな傷ができていた。

虚弱な状態が続き、体育の授業は全く参加できず。身長は伸びなかつた。歩けないので、つり革に届かずつかまれないまま電車通学した。大人になって、遅れを挽回するよう身長は伸びた。

就職時、被爆している者を採用するかしないかが問題になつたようだが、結果就職でき、転勤で各地を転々としたが、最後つつじが丘に移り住んだ。

体験を語った吉村さんは、先日、88歳でお亡くなりになりました。この夏も語っていただけたと思つたけれど叶わなかったことになつたので、掲載しました。

3か月の閉鎖から、7月ようやく、みんなをつなぐささえあいの家に戻りました。検温・マスク・飲み物持参でおいでください。消毒・換気で皆さまをお迎えします。



絵手紙講座の作品

☎・ファックス 377-3400  
開館 平日 午前10時～午後12時まで  
ささえあい活動の申し込みもどうぞ